新刊紹介

平山正実・斎藤友紀雄監修

『自死遺族支援と自殺予防――キリスト教の視点から』

（日本キリスト教団出版局、2015年）

森　山　花　鈴

本書は、キリスト教月刊誌『信徒の友』に2年間にわたり連載された「シリーズ自死」が書籍化されたものである。精神科医であり遺族支援のNPOの理事長でもあった故平山正実氏、そして日本いのちの電話連盟理事であり日本自殺予防学会理事長である斎藤友紀雄氏（日本基督教団牧師）が監修している。自死遺族支援を切り口として、過去、そして現在のキリスト教における「自死」の扱いにも踏み込んだ内容となっている。

第1章「自死遺族を支える」では、精神科医の石丸昌彦氏（キリスト教メンタルケアセンター理事）が「死に引き寄せられるのは病気の症状ゆえであって、その人本来の願望ではない」と述べる。また、平山氏も「自死者は自分の自死行為に責任があるのか」という問題について、自らのクリニックを訪れた遺族に調査を行い、多くの自死者が何らかの精神疾患に罹患し精神科を受診していたという事実を記すことで、自殺に関する誤解を丁寧に解いている。第2章「自殺予防の取り組み」では、専門職だけでなく、一般の人でもできる取り組みが説明される。また、実際に自殺者の葬儀の際に気を付けるべき点についても明らかにされている。さらに、「自殺をしたい」と打ち明けられた場合にすべきこと、すべきではないことも記されており、身近に自殺を考える人がいた場合にも役立つ内容となっている。第3章「死にたい人と自死遺族と自死者のために」では、「誰もが自殺予防に関われる」ことを提起した上で、当事者や遺族支援、自殺予防活動をしている人たちの声を紹介しており、現場の実情を知ることができる。

平山氏と斎藤氏は日本の自殺対策において先駆的な活動をしてきた方々である。本書は、この両人がキリスト教の視点からこれまでの自殺対策を振り返り、まとめ上げた本となっており、宗教と死の関係について関心がある方にもお勧めしたい。